

科目名	母性看護学概論		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (20 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 母性看護の対象と女性の生涯にわたる健康の保持・増進に必要な看護を理解する。</p> <p>目標: 1 母性看護の基盤となる概念と母性看護の対象の身体的・心理的・社会的特徴を理解できる。 2 各ライフステージにおける健康問題と看護を理解できる。 3 リプロダクティブヘルスケアを理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 母性看護の概念	3	1 母性看護の基盤となる概念 (1) 母性の定義と特徴 ア 親になることの意味 イ 母性の身体・心理・社会的特性 : 母性、父性、親性 (2) 母子関係と家族発達 ア 母親役割、父親役割 イ 母子相互作用、愛着形成 ウ 家族の発達・機能 (3) リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 ア 性(セクシュアリティ) イ セックス、ジェンダー ウ 性の多様性 エ リプロダクティブヘルス/ライツ (4) 女性や母子へのケアに関する概念 ア ヘルスプロモーション イ ウェルネス ウ 女性を中心としたケア<Women-centered care> エ 家族を中心としたケア<Family-centered care> オ プレコンセプションケア		講義
2 母性看護の対象を取りまく環境や社会の変遷と現状	4	1 母子保健統計から見た動向 (1) 女性の就業率 (2) 婚姻、離婚 (3) 出生に関する動向 (4) 死亡に関する動向 2 母子保健に関する組織と法律 (1) 母性看護に関するおもな法律 ア 母子保健法 イ 母体保護法 ウ 戸籍法 エ 死産の届出に関する規程 オ 児童福祉法 カ 児童虐待の防止等に関する法律 キ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 (DV防止法)		講義

		<ul style="list-style-type: none"> ク 労働基準法 ケ 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律(男女雇用機会均等法) コ 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法) サ 次世代育成支援対策推進法 シ 成育過程にある者及びその保護者並びに妊産婦に対し必要な成育医療等を切れ目なく提供するための施策の総合的な推進に関する法律(成育基本法) 3 母子看護に関連する施策 <ul style="list-style-type: none"> (1) 母子保健施策 <ul style="list-style-type: none"> ア 妊娠の届出および母子健康手帳の交付 イ 健康診査(妊産婦、産婦、乳幼児) ウ 保健指導・訪問指導 (2) 出産・育児にかかわる経済的支援 (未熟児養育医療) (3) 妊娠・出産包括支援事業 (4) 健やか親子21 (5) 生涯を通じた女性の健康支援 4 周産期医療のシステム <ul style="list-style-type: none"> (1) 周産期医療ネットワーク (2) 母体搬送・新生児搬送 (3) チーム医療 	
<p>3 女性のライフステージ各期における看護</p>	<p>4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1 女性のライフサイクルにおける生殖機能 <ul style="list-style-type: none"> (1) 性周期とライフサイクル (2) 性周期と心身への影響 2 思春期の健康と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 思春期女性の特徴 (2) 健康問題と看護 <ul style="list-style-type: none"> 月経異常、月経随伴症状 (3) 思春期女性への看護の視点 <ul style="list-style-type: none"> ア 月経に関する健康教育 イ 性教育 3 成熟期の健康と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 成熟期女性の特徴 (2) 健康問題と看護 <ul style="list-style-type: none"> 子宮内膜症、子宮筋腫、不妊症(男性不妊症、女性不妊症) (3) 成熟期女性への看護の視点 4 更年期の健康と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 更年期女性の特徴 (2) 健康問題と看護 <ul style="list-style-type: none"> 更年期症状と更年期障害、性交痛、尿失禁 (3) 更年期女性への看護の視点 5 老年期の健康と看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 老年期女性の特徴 (2) 健康問題と看護 <ul style="list-style-type: none"> 子宮脱・子宮下垂、骨粗鬆症 (3) 老年期女性への看護の視点 	<p>講義 GW</p>

4 リプロダクティブヘルスケア	8	1 家族計画 (1) 家族計画とは (2) 受胎調節法と指導のあり方 2 性感染症(STI) (1) おもな性行為感染症 (2) 罹患状況と予防対策 3 HIV 感染 (1) HIV 感染とエイズの発症 (2) HIV に感染した女性の看護 (3) HIV に感染した妊産褥婦の看護 4 人工妊娠中絶 (1) 人工妊娠中絶の法的根拠と動向 (2) 人工妊娠中絶術の影響 (3) 人工妊娠中絶を受ける女性の心理と看護 5 喫煙・飲酒 (1) 喫煙・飲酒女性の動向 (2) 喫煙や飲酒による女性の健康への影響 ア 妊婦及び胎児への影響 イ 新生児への影響 ウ 受動喫煙の影響 (3) 禁煙・禁酒支援 (4) 喫煙・飲酒予防への取り組み 6 性暴力 (1) 性暴力の定義と特徴 (2) 性暴力被害の実態と社会の対応 (3) 性暴力を受けた女性の看護 7 児童虐待 (1) 児童虐待の実態 (2) 児童虐待の対策 (3) 児童虐待の予防 8 国際化社会と看護 (1) 母子保健の国際化 (2) 在日外国人の母子保健 9 災害時の母子支援 (1) 災害時の母子保健対策に関するマニュアル	講義 GW
試験	1		
評価方法	筆記試験		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 母性看護学① 母性看護学概論 (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・本科目は、准看護師課程で学習している「母子看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。(特に母性看護の歴史的変遷や母性看護の役割等は、授業では詳しく説明しないので、復習や自己学習のうえ授業に臨むこと。) ・GW には積極的な参加姿勢を望む。 ・母性看護学を取り巻く環境や諸問題を深く考える機会となるよう、積極的な学習姿勢を望む。		

科目名	母性看護学方法論Ⅰ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (25 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 妊娠期及び分娩期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と経過に応じた看護を理解する。</p> <p>目標: 1 妊娠期及び分娩期の正常な経過と起こりやすい異常を理解できる。 2 妊娠期及び分娩期の経過に合わせた看護を理解できる。</p>				
授 業 計 画				
単元	時間	内 容		方 法
1 妊娠期の特徴と看護	14 (8)	1 妊娠期の生理と経過 (1) 妊娠期の身体的特性 ア 妊娠期の定義 イ 妊娠の成立 ウ 母体の生理的变化 (2) 胎児の発育と生理 ア 胎児の発育 イ 胎盤と羊水の生理 ウ 胎児の生理 (3) 妊娠期の心理・社会的特性 ア 妊婦の心理 イ 妊婦と家族および社会 2 妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠の診断 (2) 妊娠期に行う検査と目的 (3) 胎児の発育と健康状態の診断 ア 胎児心拍陣痛図(NST) イ レオポルド触診法 (4)妊婦と胎児の経過診断とアセスメント ア 妊娠経過の診断(妊婦健康診査)と妊婦・胎児の身体的健康状態のアセスメント (ア) 子宮底長・腹囲計測診 (イ) 胎児心音聴取 イ 日常生活に関するアセスメント (食生活、排泄、活動・休息、衣・清潔、性生活、嗜好品) 3 妊婦と家族の看護 (1) 妊婦の保健相談健康相談・教育の実際 ア 妊娠中の食生活 イ 健康の維持増進、セルフケア ウ マイナートラブルへの対処法 (2) 親になるための準備教育 ア 出産の準備 イ 育児の準備 ウ 家族役割の再調整		講義
	(4)	4 妊娠の異常 (1) ハイリスク妊娠 ア ハイリスク妊娠の定義 イ 妊娠経過に影響を及ぼす基礎疾患 (ア)心疾患 (イ)代謝異常合併妊娠		講義

		<p>(2) 妊娠期の感染症 ア 風疹 イ トキソプラズマ症 ウ サイトメガロウイルス感染症 エ 単純ヘルペス オ 水痘、帯状疱疹 カ 成人T細胞性白血病 キ その他 (B群溶血性連鎖球菌、梅毒、性器クラミジア)</p> <p>(3) 妊娠疾患 ア 妊娠悪阻 イ 妊娠高血圧症候群 ウ 血液型不適合妊娠</p> <p>(4) 多胎妊娠</p> <p>(5) 妊娠持続期間の異常 ア 流産(不育症:習慣流産) イ 早産・切迫早産 ウ 過期妊娠・過期産</p> <p>(6) 異所性妊娠</p> <p>5 ハイリスク妊婦の看護 (1) ハイリスク妊婦の看護 ア 高年妊婦・若年妊婦 イ 肥満・過剰体重増加妊婦 ウ 生殖補助医療(ART)後の妊婦 エ 合併症を有する妊婦(GDM) オ 妊娠高血圧症候群妊婦 カ 切迫流・早産妊婦 キ 多胎妊婦 ク その他の問題をもつ妊婦:未婚、再婚家族</p>	
	(2)	胎児心拍陣痛図(NST) レオポルド触診法 子宮底長・腹囲計測診 胎児心音聴取	演習
2 分娩期の特徴と看護	10 (4)	<p>1 分娩期の特徴と経過 (1) 分娩の要素 ア 分娩期の定義と区分(分娩時期・経過) イ 分娩の3要素 ウ 分娩の機序 (2) 分娩の経過 ア 分娩進行と産婦の身体的変化 イ 産痛 ウ 胎児への影響 エ 産婦の心理・社会的変化</p> <p>2 産婦・胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント ア 基礎的情報の収集 イ 分娩経過のアセスメント ウ 分娩進行に伴う反応のアセスメント エ 基本的ニードのアセスメント (2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント</p>	講義

		<p>3 産婦と家族の看護</p> <p>(1) 看護目標と産婦のニード</p> <p>(2) 安全・安楽な分娩への看護</p> <p>(3) 出産体験が肯定的(よいお産)になるための看護</p> <p>(4) 基本的ニードに関する看護</p> <p>(5) 家族発達を促す看護</p>	
	(4)	<p>4 分娩の異常</p> <p>(1) 娩出力の異常 : 微弱陣痛</p> <p>(2) 胎児付属物の異常</p> <p>ア 前置胎盤 イ 常位胎盤早期剥離</p> <p>(3) 卵膜の異常 : 前期破水</p> <p>(4) 羊水の異常 : 羊水混濁</p> <p>(5) 胎児機能不全</p> <p>(6) 分娩時の損傷</p> <p>ア 頸管裂傷 イ 会陰裂傷</p> <p>(7) 分娩第Ⅲ期及び分娩直後の異常 : 子宮弛緩症(弛緩出血)</p> <p>(8) 分娩時異常出血</p> <p>ア 産科ショック イ 羊水塞栓症 ウ DIC</p> <p>(9) 産科処置と産科手術</p> <p>ア 分娩誘発 イ 会陰切開 ウ 吸引分娩・鉗子分娩</p> <p>エ 帝王切開</p> <p>5 異常のある産婦の看護</p> <p>(1) 破水が生じた産婦</p> <p>(2) 分娩遷延のリスクのある産婦</p> <p>(3) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦</p> <p>(4) 異常分娩時の産婦</p> <p>ア 帝王切開を受ける産婦</p> <p>イ 急速遂娩を受ける産婦</p> <p>(ア) 緊急帝王切開 (イ) 吸引分娩・鉗子分娩</p> <p>(5) 分娩時異常出血のある産婦</p>	講義
	(2)	胎盤の精査・計測	演習
試験	1		
評価方法	<p>筆記試験 演習への参加姿勢 演習後のレポートの提出状況・内容</p> <p>} 総合的に評価する。</p>		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	<p>・本科目は、准看護師課程で学習している「母子看護」を既修学習として、積み上げる学習科目である。既修学習内容を復習のうえ、授業に臨むこと。</p> <p>・本科目は、母性看護学実習に必須の知識・技術のため、積極的な学習姿勢を望む。</p> <p>・また、テキスト等を予習のうえ、授業に臨み、積極的・主体的な参加姿勢で臨むこと。</p> <p>・授業後は復習しておくこと。</p> <p>・GW や演習には、事前の学習内容を復習のうえ、積極的・主体的な参加姿勢で臨むこと。(演習は組み合わせて実施することがある。)</p>		

科目名	母性看護学方法論Ⅱ		履修年次	1 年次
科目区分	専門分野	単位数(時間)	1 単位 (25 時間)	
講師名		講師の実務経験の有無	有 ・ 無	
<p>目的: 産褥期及び新生児期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と経過に応じた看護を理解し、褥婦及び新生児に対する看護を実践する基礎的能力を習得する。</p> <p>目標: 1 産褥期及び新生児期の正常な経過と起こりやすい異常を理解できる。 2 褥婦及び新生児の経過に合わせた看護を理解できる。 3 褥婦及び新生児に対する看護技術を習得できる。</p>				
授 業 計 画				
単 元	時 間	内 容		方 法
1 産褥期の 特徴と看護	14 (10)	<p>1 産褥期の特徴と経過</p> <p>(1) 産褥期の身体的変化</p> <p>ア 産褥期の定義</p> <p>イ 退行性変化(子宮の復古と悪露)</p> <p>ウ 進行性変化(乳汁の分泌)</p> <p>エ 全身の変化</p> <p>(2) 産褥期の心理的・社会的変化</p> <p>ア 褥婦の心理的变化:母になることへの適応過程</p> <p>イ 家族の心理的变化</p> <p>2 褥婦のアセスメント</p> <p>(1) 褥婦の健康状態のアセスメント</p> <p>ア 退行性変化:生殖器の復古</p> <p>イ 進行性変化:乳房の状態</p> <p>ウ 褥婦の生活パターンとセルフケアレベル</p> <p>エ 不快症状と対処能力</p> <p>(2) 褥婦の心理・社会面のアセスメント</p> <p>ア 心理的变化</p> <p>イ 関係性・役割獲得</p> <p>ウ 褥婦を取りまくサポート体制</p> <p>3 褥婦と家族の看護</p> <p>(1) 身体機能の回復及び進行性変化への看護</p> <p>ア セルフケア不足に対する看護</p> <p>イ セルフケア能力を高める看護</p> <p>(2) 児との関係確立への看護・親子の愛着形成支援</p> <p>(3) 育児に関わる看護(育児技術獲得支援)</p> <p>ア 児の栄養(授乳):母乳育児支援</p> <p>イ 児の清潔</p> <p>ウ 児の健康管理</p> <p>(4) 家族関係再構築への看護</p> <p>ア 上の子への対応</p> <p>イ 夫(パートナー)への対応</p> <p>4 施設退院後の看護</p> <p>(1) 育児不安と育児支援</p>		講義

		<ul style="list-style-type: none"> ア 育児不安 イ 育児支援 (2) 職場復帰 	
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 新生児の抱き方・乳房の含ませ方・おむつ交換 	演習
	(2)	<ul style="list-style-type: none"> 5 産褥の異常 <ul style="list-style-type: none"> (1) 子宮復古不全 (2) 産褥期の発熱:産褥熱、乳腺炎 (3) 精神障害:マタニティブルーズ、産後うつ病 6 異常のある褥婦の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 感染症(成人T細胞白血病)のある褥婦 (2) 乳房トラブルのある褥婦 (3) 本人あるいは児の健康状態に問題がある褥婦 <ul style="list-style-type: none"> ア 帝王切開術後の褥婦 イ 児に健康上の問題がある(障害のある児をもつ)褥婦 ウ 育児に困難さを抱える褥婦(多胎児の育児における困難感) エ 児を亡くした褥婦・家族 7 精神障害合併褥婦と家族の看護(妊娠期継続看護) 	講義
2 新生児期の特徴と看護	10 (6)	<ul style="list-style-type: none"> 1 新生児期の特徴と経過 <ul style="list-style-type: none"> (1) 新生児の生理 <ul style="list-style-type: none"> ア 新生児期の定義 イ 新生児の機能 <ul style="list-style-type: none"> (ア)子宮外生活適応現象 (イ)呼吸 (ウ)循環 (エ)体温 (オ)消化と吸収 (カ)ビリルビン代謝と生理的黄疸 (キ)水電解質代謝・腎機能 (ク)免疫 (ケ)皮膚 (コ)反射 (サ)感覚機能(聴覚・視覚) 2 新生児のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> (1) 新生児の診断 <ul style="list-style-type: none"> ア ハイリスク児の評価 イ 出生直後の評価:アプガースコア ウ 発育の評価(成熟度の評価) エ 外表所見の評価(先天異常) オ 黄疸の評価 カ 新生児マススクリーニング キ 行動の評価 ク 母子関係における評価 (2) 健康状態のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ア バイタルサインの測定 イ 身体計測 ウ 全身の観察:フィジカルアセスメント エ 生理的体重減少 オ 生理的黄疸 (3) 生活のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> ア 哺乳状態 イ 保育環境 3 新生児の看護 <ul style="list-style-type: none"> (1) 出生直後の看護:気道の確保と保温 	講義

		(2) 出生後から退院までの看護 ア 体温管理 イ 身体の清潔(臍の処置含) ウ 栄養 エ 医療事故予防と感染予防 (3) 生後1ヶ月健康診査に向けた退院時の看護 ア 退院診察 イ 児が順調に育つための環境づくり(保育環境の調整)	
	(2)	新生児のバイタルサインの測定 身体計測 身体の清潔(沐浴)・臍の処置	演習
	(2)	4 新生児の異常と看護 (1) 新生児仮死 (2) 早産児、低出生体重児 (3) 高ビリルビン血症 (4) 新生児ビタミン K 欠乏性出血症 (5) 低血糖症 (6) 呼吸障害: ア 新生児一過性多呼吸(TTN) イ 呼吸窮迫症候群(RDS) ウ 胎便吸引症候群(MAS)	講義
試験	1		
評価方法	筆記試験 演習への参加姿勢 演習後のレポートの提出状況・内容 } 総合的に評価する。		
必須資料 (テキスト)	系統看護学講座 専門分野 母性看護学② 母性看護学各論 (医学書院)		
参考資料	・授業資料は適宜印刷のうえ、配布する。		
履修上の 留意事項	・母性看護学実習に必須の知識・技術のため、積極的な学習姿勢を望む。 ・准看護師課程で学習している「母子看護」の既修学習を復習のうえ、授業に臨むこと。 ・また、テキスト等を予習のうえ、授業に臨み、積極的な学習姿勢を望む。 ・演習には、事前に授業を十分に復習し、授業資料やテキストを持参のうえ、積極的・主体的な参加姿勢で臨むこと。 ・授業後は復習しておくこと。 ・母性看護学実習前には、看護技術の習得状況を確認する。(沐浴技術や身体計測技術等) そのため、演習時間内で十分な習得ができていないと思われるときは、事後に自己練習のうえ、確実な技術習得を望む。		